

人生は想定外の連続

振り返ると、人生は想定外の連続である。

小学生のころ、学研子どもまんが『ナイチンゲール』（横田とくおさんの絵のかわいさ）に憧れて看護学科に入学するも、たまたま講義にいられた先生の研究室（人類遺伝学）に進学、ペーパーナースとなる。大学院生のころ、ちょうど『ヒトゲノム配列解読完了！』のニュースが巷に流れ、ゲノム解析のための基盤情報が整っていったおかげで、染色体全域を対象とした研究が可能になった。そんな中、自分とは

凛としていきる

理系女性の挑戦

理解と支えあって働き続ける

全く無縁だと思っていた、全染色体上に設定した約2万5千個のマイクロサテライトマーカーを用いた解析を実施する機会をいただいた。当時最新の、1ラウン48サンプルを泳動できるキャピラリーシーケンサーと、20台のサーマルサイクラーを

夜な夜なフル稼働させ、ひたすらデータを出した。現在のビッグデータ解析の走りである。世界中の誰も知らない新しい知見が、まさに自分の目の前で出される、という、この上ない高揚感を味わえた。

しかしそのせいで、日常的に終バスに乗り遅れる、休日も実験、という生活を送った。学位取得後結婚し第一子を授かる。しかし

し、助成金や研究費には期限があり、年更新の身分では満足な育児休暇を取れないことがわかると、夫が3年間の育児を取得した。

会社の中でも男性の育児取得は初めてだったようだ。そのおかげで、私は産後休暇後すぐに仕事に復帰した。夫は育児中、育児だけではなく、私が授乳できる（子供と触れ合える）ようにと1日に数回職場に子供を連れて来てくれた。

様々な変遷があり、夫は退職して主夫となり、その後、第2子が生まれて4人家族になった。よく子供には母親が1番と言われるが、そうとは限らない。わが家の第1子は完全にパパっ子である。夫婦の立場が逆転していることで、制度等、前例がないと言われることが多く苦勞はあるが、それと同時に、男性の同僚やママ友との会話から妻・夫双方の気持ちかわかり、自然と相手に対する感謝の気持ちが生まれる。



寝る前の楽しみ、パパの寝かしつけ

んなの助けのおかげで、仕事を続けていくことができています。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）

（火曜日に掲載）

バイオサイエンス
データベ이스セン
ター・研究員

堀込 実苗



＜プロフィール＞04年
東京大学大学院医学系
研究科修了後、寄付講座
座教員、スタンフォード
大学博士研究員、古
巣での特任助教を経て
13年より現職。